

実験映画とドキュメンタリーは、映画館などでは上映の機会が少ないため、一般に馴染みの薄いものとなっています。しかし、映画が単純な娯楽に留まらない深みと奥行きを持っていることは、これら劇映画とは異なる映像ジャンルの存在を抜きには語れません。この上映会は、実験映画とドキュメンタリーに触れる切っ掛けとして、このジャンルの優れた作品や代表作を紹介するものです。まず、実験映画を代表する作家ジョナス・メカスや、ビデオアートのパイオニアであるナム・ジュン・パイク、ビル・ヴィオラの歴史的にも重要な作品を上映します。また、現代の作品として、愛知芸術文化センター・オリジナル映像作品として制作された七里圭『ホットントットエプロンスケッチ』(2005年)や、同時期に開催する映像アートの祭典「イメージフォーラム・フェスティバル2007」の応募作品より、この地域出身の作家の作品をセレクトした特別プログラム「愛知の新世代たち2007」の上映も行います。

また、アート・ドキュメンタリーの興味深い事例として、愛知芸術文化センター1階のビデオ・ライブラリーで公開している「大野一雄ビデオ・ライブラリー」より、作品をセレクトした特集プログラムも上映します。昨2006年10月に100歳となった舞踏の創始者の一人、大野一雄は、映像メディアとの関わりが深く、公演の記録映像の他、映画への出演も少なくありませんが、彼の様々な形での映像との関わりは、ダンスと映像の二つの表現メディアを考察する上で、示唆に富むものといえるでしょう。また今回は、大野の舞台美術を手掛けるなど親交のあった、美術家・水谷勇夫とのコラボレーションの軌跡を、記録映像でたどる特別プログラムを加えての上映となります。

実験映画とドキュメンタリーの入門プログラムとして、愛好家の方々に限らず、多くの皆様のご来場をお待ちしております。



長野千秋『O氏の肖像』(1969年)

Pleasure of Experimental and Documentary Film



上映プログラム

ジョナス・メカス『「いまだ失われざる楽園」、あるいは「ウーナ3歳の年」』(1979年)

13 [水] 「実験映画&ビデオアート・アンソロジー①」

18:00 ナム・ジュン・パイク『グローバル・グループ』(共作:ジョン・J・ゴットフリー、1973年、ビデオ、31分)*
18:40 ジョナス・メカス『「いまだ失われざる楽園」、あるいは「ウーナ3歳の年」』(1979年、16mm、90分) 20:10 終映

14 [木] 「実験映画&ビデオアート・アンソロジー②」

18:00 ナム・ジュン・パイク『ガダルカナル鎮魂歌(レクイエム)』(共作:シャーロット・モーマン、1977-79年、ビデオ、28分)*
『中国では切手は舐められない』(共作:グレゴリー・バトコック、1978年、ビデオ、28年)*
19:10 ビル・ヴィオラ『四つの歌』(1976年、ビデオ、33分)*
『記憶の表面と心の祈り』(1977年、ビデオ、28分)* 20:11 終映



ナム・ジュン・パイク『ガダルカナル鎮魂歌(レクイエム)』(1977-79年)

15 [金] 「実験映画とビデオアートの現在」

17:40 七里圭『ホットントットエプロンスケッチ』(AACオリジナル映像作品第14弾、2005年、ビデオ、70分)*
19:00 「愛知の新世代たち2007」計9作品、72分
岡田明憲、香川純平『月蝕』(2007年、ビデオ、9分) 萩原大輔『bubly023』(2007年、ビデオ、2分)
桑山佳代子『空はとても青い』(2006年、ビデオ、5分) 吉岡俊直『PLAY』(2007年、ビデオ、16分)
西川智也『Clear Blue Sky』(2006年、ビデオ、4分) 水野愛子『COSMOS』(2006年、ビデオ、13分)
アライユウジ『終わりの朝』(2006年、ビデオ、5分) 水野愛子『MOTHER さようならと言う名前のお話』(2006年、ビデオ、15分)
天野裕一『携帯夢 K-TIME』(2006年、ビデオ、3分)
※終映後、出品作家の紹介と、座談会を行います。(20:50 終了予定)

※16日[土]~17日[日]は、「イメージフォーラム・フェスティバル2007」を開催
URL <http://www.imageforum.co.jp/festival> ※18日[月]は休館

19 [火] 「実験映画&ビデオアート・アンソロジー③」

17:30 ナム・ジュン・パイク『パイクによるマースによるマース』(1978年、ビデオ、28分45秒)*
「パート1:ブルー・スタジオ、ファイブ・セグメント」(マース・カニングハム+チャールズ・アトラス、1975-76年、15分38秒)
「パート2:マース・アンド・マルセル」(ナム・ジュン・パイク+久保田成子、1978年、13分05秒)
『アランとアレンの不平』(共作:久保田成子、1982年、ビデオ、28分33秒)*
18:40 ビル・ヴィオラ『プールの反映』(1977-80年、ビデオ、62分)*
『砂漠』(1994年、ビデオ、26分)* 20:08 終映



七里圭『ホットントットエプロンスケッチ』(2005年)

20 [水] 「大野一雄ビデオ・ライブラリー セレクション①」

18:00 『KAZUO OHNO』(監督:ダニエル・シュミット、AACオリジナル映像作品第4弾、1995年、35mm、15分)*
18:20 『稽古場の 大野一雄』(監督:ダニエル・シュミット、1995年、ビデオ(オリジナル16mm)、13分)*
18:45 『ラ・アルヘンチーナ頌』初演
(演出:土方巽、映像制作:ビデオインフォメーションセンター 手塚一郎、1977年、ビデオ、70分)* 19:55 終映

21 [木] 「大野一雄ビデオ・ライブラリー セレクション②」

18:00 『ラ・アルヘンチーナ頌』(演出:土方巽、大野慶人、映像制作:水谷イズル、1994年、ビデオ、60分)*
19:10 『わたしのお母さん』(演出:土方巽、大野慶人、映像制作:水谷イズル、1995年、ビデオ、60分)* 20:10 終映

22 [金] 「大野一雄ビデオ・ライブラリー セレクション③」

17:40 『睡蓮』(演出:大野慶人、映像制作:水谷イズル、1994年、ビデオ、69分)*
19:00 『O氏の肖像』(企画・製作・撮影・照明・構成:長野千秋、1969年、ビデオ(オリジナル16mm)、65分)* 20:05 終映

23 [土] 「大野一雄×水谷勇夫 コラボレーションの軌跡①」

14:00 『蟲びらぎ』(於:セツ共同スタジオ、舞台美術:水谷勇夫、撮影:水谷典子、映像制作:水谷イズル、1990年、ビデオ、70分)
15:20 『ギャラリーAPA 水谷勇夫展にて』(映像制作:水谷イズル、1993年、ビデオ、20分)
15:50 『名古屋市美術館 水谷勇夫展にて』(映像制作:水谷イズル、1994年、ビデオ、60分)

「大野一雄ビデオ・ライブラリー セレクション④」

17:00 『死海』(演出:土方巽、1985年、ビデオ、60分)* 18:00 終映

「大野一雄ビデオ・ライブラリー セレクション⑤」

14:00 『宇宙の花』(映像制作:水谷イズル、2000年、ビデオ、77分)*

24 [日] 「大野一雄×水谷勇夫 コラボレーションの軌跡②」

15:25 『蟲びらぎ』(70分)〈再映〉
16:45 『大野一雄小公演』
(於:愛知芸術文化センター、撮影:早野嘉伸、水谷イズル、原將人、映像制作:水谷イズル、2003年、ビデオ、23分) 17:08 終了
*印の、愛知県文化情報センター所蔵作品ならびに、大野一雄ビデオ・ライブラリー作品は、1階ビデオ・ライブラリーでリクエストにより鑑賞できます。